

ONLINE

新型コロナウイルス感染症対策 webセミナーを開催しました

2020年12月8日(火)

『医療・高齢者施設クラスター事例から考える新型コロナウイルス感染症対策～感染しないために何ができるのか?～』をテーマに、150名の医療・介護関係者の皆さんの参加を頂き、大変有意義な研修会となりました。

新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ、医師会館会議室をメインスタジオに、講師お二方はそれぞれの診療所からと3ヶ所を結び発信しました。参加者も職場や自宅で、パソコンやタブレット、スマートフォンを使つてのセミナー参加と当センターにとって初めての形式での取り組みとなりました。

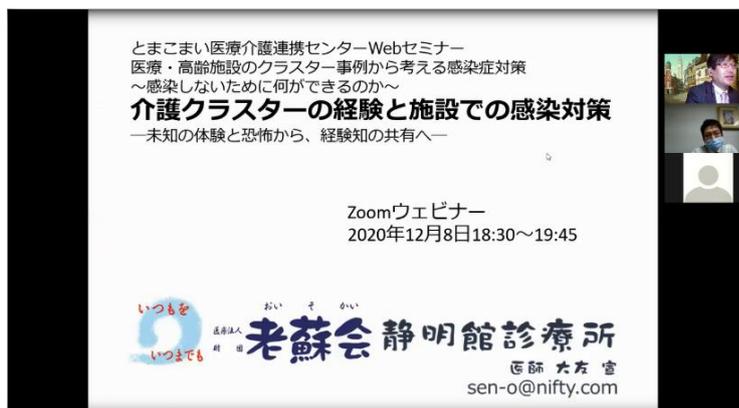
今回は、苫小牧市医師会豊田副会長を総合司会に、地域福祉部堀田担当理事を座長に迎え、クラスターへの経験と高齢者施設での感染対策に携われた体験をお持ちの静明館診療所大友先生と栄町ファミリークリニック中川先生にご講義をいただきました。



大友先生からは、介護クラスターで医療・介護崩壊となった介護老人福祉施設と死亡者なくクラスターを終息したグループホームの2つの事例を踏まえ、感染予防にも、感染を拡げないためにも、感染を収束させるためにも標準予防策が最も重要なこと。そして、実際の介護場面での感染予防策としては、誰が、いつ、新型コロナウイルスに罹患していても、濃厚接触者にならないことが基本的な考え方と話されました。

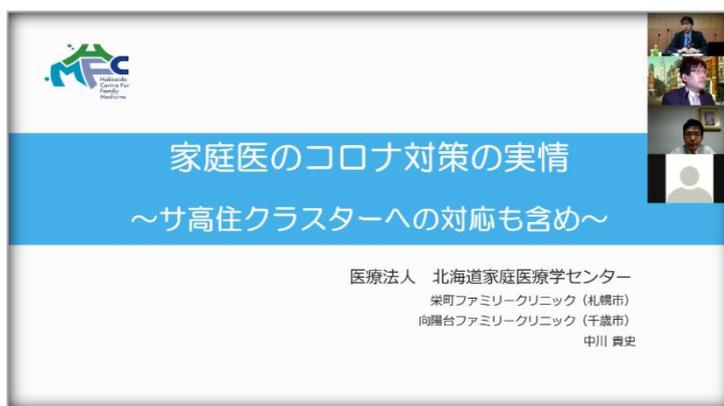
ご講演のポイントとして、早期発見！早期対応！。動けない認知症の人を感染対策しよう。相互救援体制。とにかく標準予防策。交通ルールを守ろう（新型コロナウイルスの世界と交通ルールの世界を比べてみて）。普段から準備をしよう。の6点をあげられました。新型コロナウイルス感染症

ご講演のポイントとして、早期発見！早期対応！。動けない認知症の人を感染対策しよう。相互救援体制。とにかく標準予防策。交通ルールを守ろう（新型コロナウイルスの世界と交通ルールの世界を比べてみて）。普段から準備をしよう。の6点をあげられました。新型コロナウイルス感染症



はこれからが本番。施設への波及は他の感染症と同様に避けることはできない。発生しないような予防+発生しても被害を最小限にする工夫と準備をする。そのためには感染予防対策と普段からの準備が欠かせない。の4つのメッセージをいただきました。

中川先生からは、二つのサービス付高齢者住宅とデイサービスの感染者動向から、新型コロナウイルスの怖さは身体的ダメージのみならず、私達の心の隙に入り込み、不安、恐怖などから他者への攻撃性やチームを揺るがすことがおこること。ターニングポイントとしてクラスター対策班との合流により、PPEの使い方の現実的対応、現実的なゾーニングを徹底したこと。JMATチームとした医療として正式な関わりを開始したことで、暗中模索から承認、希望が見え始め、介護・診療などの連携体制がより強固となり立ち向かえたこと。これしかできなとか他者への不満ではなく、やれることをやると承認することや俯瞰的な視点を持ち合わせた指揮官の存在が必要と話されました。



今後は、正しく恐れ、感染リスクをできるだけ避け、特に入院できるか否か等の状況を正確に把握するシステムが大切であり計画性を持つこと。現場

のスタッフの雰囲気や対策の現状を知るため先ずは足を運ぶこと、クラスター対策班、対策本部の早期派遣、設置。不可欠な補償制度を迅速に進めること。結果論だけで語らず、「終わらないクラスターはない」、「大丈夫、時間が解決するから」と悲観から偶有性を見出すことが課題ですと。最後



に、クラスター発生は起こらないに越したことはない。しかし、万が一はどこでも起こりうる。他者を責めず、皆を認め合い、エンパワーメントし合っ乗り越えるしかできない。みなさんとなら乗り越えられると信じています！とメッセージをいただきました。

《質疑応答》は《セミナー参加申込時にいただきました質問と回答》と共に、また、セミナー参加者アンケートはそれぞれ準備ができ次第別掲させていただきます。